

令和4年(2022年)1月25日

No.205 | 議会だより

Otofuke Town Assembly

おとふけ



「沈む木陰」 駒場 坂田鈴歌さん撮影

12月定例会 P2~3

議案等審議で討論 P4~5

一般質問~11名が発言 P6~11

委員会の動き P12~13

常任委員会合同調査 P14

発行/音更町議会 編集/広報特別委員会

〒080-0198 北海道河東郡音更町元町2番地 ☎ 0155-42-2111 FAX 42-3575
<http://www.town.otofuke.hokkaido.jp> E-mail:gikaisoumuka@town.otofuke.hokkaido.jp



議会だよりは議会と町民をつなぐ架け橋です

音更高校へタブレットを無償貸与 = 子育て世帯へ現金10万円を一括給付 =

12月定例会

第4回定例会が、12月8日から12月16日までの9日間の会期で開かれ、一般会計補正予算や新規条例の制定などの議案、陳情について審議しました。一般質問では、11名が13項目について理事者の考えをたどりました。

議案の審議では、各会計補正予算や条例改正などの議案すべてを原案どおり可決した。

「音更町中小企業・小規模企業振興基本条例案」では1名が賛成討論を行った。

定例会初日に総務文教常任委員会（上野美幸委員長）に付託された「音更町パークゴルフ場利用料無料化に関する件」は定例会最終日に継続審査とする委員長報告があった。

北海道町村議会議長会から要請のあった「地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求

める要望意見書」は、原案どおり可決し、関係機関に送付した。

決まった 主な内容

新規条例を制定

道の駅おとふけの移転に伴い、その設置及び管理に関する事項を定める「道の駅おとふけ条例案」と中小企業及び小規模企業の振興を総合的に推進し、地域経済の発展及び町民生活の向上に寄与することを目的とする「音更町中小企業・小規模企業振興基本条例案」を可決した。

道の駅おとふけ 指定管理者を指定

令和4年4月に移転開業予定の「道の駅おとふけ」について、オカモト・鈴蘭ビルサービスグループを指定管理者に指定した。期間は令和14年3月31日まで。

年末年始の休日期間 住民サービスの向上

音更町の年末年始の休日期間を国等と同様



自分で作ればうまさも倍増（手作りソーセージ教室）

教育委員会委員の 任命に同意

とし、より円滑な行政事務の執行及び住民サービスの利便性の向上を図るため、関係条例を改正した。令和4年度以降の休日期間は12月29日から翌年の1月3日までとなる。

令和4年1月19日で任期満了となる教育委員会委員について、次の方の任命に同意した。
・高橋敬貴さん（新任）

第4回定例会初日の12月8日、小野町長から行政報告がありました。

行政報告

◆ワクチンの接種状況

本町における新型コロナウイルスワクチンの接種状況は、町内医療機関のご協力により、10月末までに希望する全ての方への接種が完了し、11月以降は新たに12歳となった方などを対象とした接種を行っている。国は2回目の接種を受けてから8か月を経過した方を対象に3回目の追加接種を行うこととしたことから、町としては国の動向を注視しながら、引き続き町内医療機関と連携を図り、追加接種に向けた準備を進めていく。

◆新型コロナウイルス感染症に係る経済対策

町独自で実施している町内事業者等に対する支援策の11月末現在の実績は、「音更町飲食店等サポート給付金」が105件、2,100万円の交付。「音更町緊急事態措置協力支援金」は26件、390万円の交付。観光業は、緊急事態宣言が解除された10月1日から音更町宿泊助成事業「おとふけ割」を再開し、11月末までの2か月間で2万238泊、4,047万6,000円の利用があり、12月以降も約1万泊の予約が入るなど、少しずつではあるが客足が戻ってきている手応えを感じている。感染状況や国及び北海道の対応方針を見極めながら、引き続き商工会、町内金融機関、十勝川温泉旅館組合などと連携を図り対応していく。

◆音更町開町120周年記念事業

10月15日、音更町開町120周年記念式典を挙行。約280名の皆様にご列席を賜り、120周年の節目を共に祝していただいた。また、10月17日には120周年記念事業として、生涯学習特別講座「おとふけ120年の歩みと伊福部昭の世界」を開催し、町内在住のピアニスト川上敦子さんをはじめ、音更町伊福部昭記念ジュニアオーケストラ、音更高校管弦楽局などにご出演いただき、伊福部氏の代表曲が演奏された。



新型コロナウイルス感染症が長期化し、その影響がさまざまな人々に及ぶ中、子育て世帯については、子どもたちを力強く支援する観点から、一時金を支給する「子育て世帯への臨時特別給付金」について、現金10万円を一括して支給する補正予算を可決した。

子育て世帯支援
現金10万円一括給付

文科省の新学期指導要領に基づき、新年度の道立高校入学生から生徒1人1台のタブレット導入となるが、原則私費負担となっている。音更高校の支援策の一環として来年4月に入學する新1年生全員分のタブレットを無償貸与する補正予算を可決した。

音更高校支援
町がタブレット無償貸与

障がいや感覚過敏などのやむを得ない事情でマスク着けられない人がいることへの周囲の理解を促し、誤解や偏見により批判を受けることがないよう、バツジ等を希望者に配布する「マスク着用困難意思表示アイテム事業」補正予算について可決した。

マスク着用困難
意思表示アイテム配布

第4回臨時会が11月30日に開かれ、灯油価格の高騰に伴い、生活困窮状態の世帯に助成金を給付し、生活の安定を図ることを目的とする福祉灯油費を含む一般会計補正予算を可決した。

第4回臨時会
福祉灯油費
762万円を補正

主な一般会計補正予算 (千円以下切り捨て)

・子育て世帯への臨時特別給付金	6億9,000万円
・路線バス維持対策補助金	5,407万円
・共栄コミュニティセンター冷房設備設置工事	1,489万円
・タブレット端末購入費(音更高校入学者貸与用)	600万円
・マスク着用困難意思表示アイテム事業	25万円

たくさんの写真応募 ありがとうございます

今号の表紙は、町民の皆様から応募いただいた写真を掲載しています。音更町議会として初めての取組で、風景・人物・行事などの写真を募集し、そのうちの1枚を表紙に掲載させていただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。

議案審議で討論

定例会最終日、議案1件に対し、賛成の討論がありました。その内容を要約して掲載します。

議案第14号 音更町中小企業・小規模企業振興基本条例案

賛成

地域経済の生命線

神長 基子 議員(日本共産党)

中小企業及び小規模

機関の役割と、町民に
対する理解と協力につ

いて明記された。互いの役割に対する認識を明らかにし、連関性を発揮する上で大きな意義があり、賛成する。

企業者は、地域経済の形成にとってなくてはならない生命線だ。長引くコロナ禍で、中小企業等と商工会、金融機関、町、町民の相互の協力共同こそが、足腰の強い持続可能な地域経済に欠かせないことを改めて学んだ。本条例案には第5条「町の責務」に続き、中小企業等、商工会、金融

3月定例会(予定)

3月1日開会

議会は公開しています。
いつでも傍聴できます。

会議の日程は、新聞、町のホームページに掲載されますが、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

問合せ先 議会事務局

0155-42-2111(内252・253)

ホームページアドレス

<http://www.town.otofuke.hokkaido.jp>

請願・陳情の審査結果

区分	件名	提出者	審査委員会	結果
陳情第7号	音更町パークゴルフ場 利用料無料化に関する件	音更町パークゴルフ協会 会長 石井 稔	総務文教 常任委員会	継続 審査

議会にひとこと

コロナ禍で広がる
困窮者の声を

O・Tさん
(緑陽台南区)

コロナ禍での生活が
2年経過しておりま
す。マスクの着用、換

気をする、3密を避けるなどの対策がとられ、ワクチン接種も行われてきましたが、新しい変異種による感染拡大が心配です。コロナ禍が長期化する中で雇用条件が不安定な労働者の間に、貧困の広がりが見え

になってきました。音更町でも対策はとられておりますが、町議会の議員の皆さんには、生活苦にあえぐ方々の声を一般質問を通して届けていただきたいと思います。日常活動の中で「大きな耳を」もって…。

祝 音更町開町120周年記念式典



音更町は開町120周年を迎えました



20年ぶりに復活したカリヨンの鐘の音

議会にひびくこと

議会をもっと身近に

K・Tさん

(中鈴蘭)

2019年に開催されたナイター議会に参加したのが、議会に初めての傍聴でした。それまで議員の活動を知る機会があまりありま

せんでしたが、町のために頑張っている姿を拝見し、非常に勉強になりました。コロナ禍でナイター議会が開催されないことは残念ですが、日中仕事をしている方にとっては、議会に足を運ぶ良い機会ですので、来年は是非、開催してほしいと思います。また、議会

報告会も工夫して開催してはどうかと思います。例えば、高齢者や若年者、企業経営者など世代や各団体を分ける等、要望や意見がそれぞれ違うと思いますので、そういう機会が増えれば、もっと議会が身近になると思います。

議会中継に関する お知らせ

令和2年第1回定例会より議会中継は動画配信サービス「YouTube」を利用して配信しています。
YouTube 音更町議会のチャンネル登録をお願いします。

国へ 要望意見書 を提出しました (要約して掲載)

地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める件

北海道内では、定期的実施されている海洋観測モニタリングのデータや、ブリ、マンボウなど南方系魚種の回遊が多く見られていることから、海水温の上昇が、漁業に大きく影響を及ぼしているものと推察され、地球温暖化・海水温上昇の原因の究明が急務となっている。毎年、その被害状況は増しており、サケ・サンマ等が減少し長期的には、昆布の水揚げも激減してきている。

北海道を代表する秋サケも不漁に悩まされ続けている状況は、直接的に打撃を受けている漁業従事者のみならず、関連する水産加工業者への影響も含め、地域経済に大きなダメージを与え地域の活力を削ぎ、地域の衰退を招きかねない。

このことは、新型コロナウイルス感染症対策による飲食店での消費減退に伴う魚価安が、更に水産漁業者の不安を増幅させている。また、今年9月以降赤潮が発生し、ウニや秋サケ、ブリ、ツブ、シシャモなどに被害が及び、大きな経済的損失を被るとともに、来年以降の漁に大きな不安を生じさせている。

よって国においては、次の措置を早急に講ずるよう強く要望する。

記

- 1 カーボンニュートラルの実現を着実に行うこと。
- 2 海水温上昇に伴う水産漁業等被害の実態調査を行うこと。
- 3 被害対策の策定と支援を行うこと。
- 4 長期的な水産振興策の策定と支援を行うこと。
- 5 赤潮発生による被害対策と漁業支援及び地域支援を行うこと。
- 6 コロナ禍において、飲食店自主規制により魚価安のダメージを受けている水産漁業関連、地域経済に対し、緊急の経済支援策を行うこと。

一般質問

12月10日、13日、14日、11名の議員
が理事者の考えをたしました。
その内容をお知らせします。



スマホで議会を見よう！

傍聴しなければわからない議員の姿を映像で。
リアルな雰囲気伝わります。

音更町議会 議会中継



見たい会議を選んで視聴できます。



いつでも
どこでも
見られるね。



デジタル行政の推進を 人に優しい社会を目指し

松浦 波雄議員(公正クラブ)



質問Ⅱ 新型コロナウイルス感染症により、急速なデジタル技術の進展と利用拡大が進む一方、行政分野におけるデジタル化やオンライン化の遅れが浮き彫りとなった。国はデジタル庁の創設などデジタル化対策を強めており、多くの自治体も工程表を作成し、自治体DXを推進している。本町においてもデジタルを活用した各種取組を具体化し、町民・行政・企業すべての人に優しい社会の実現を目指すため、町の現状と今後の取組について伺う。



スマホでカンタンに手続き

利便性向上を図る施策 優先に取り組む

小野町長Ⅱ 厳格な本人認証を必要としない新型コロナウイルススワク
チン接種申請などの各種申請等は、北海道電子自治体共同システムの電子申請サービスを活用し、受付している。来年度中に、子育て関

連、介護関連、被災者支援関連の合計27手続をマイナポータルのびったりサービスからオンライン化するよう準備を進めている。今後国が進めるデジタル化に柔軟に対応するとともに町民のニーズや利便性の向上が図られる施策を優先し、自治体DXに取り組む。

「議会だより」について ご意見をお寄せください

Tel 0155-42-2111
Fax 0155-42-3575
E-mail gikaisoumuka@town.otofuke.hokkaido.jp

自治体DX(トランスフォーメーション)
自治体が担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させること。また、デジタル技術やAI等の活用により効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上につなげていくこと。

TRANSFORMATION

音更町デジタル地域通貨

地域経済の活性と社会貢献

坂本 夏樹 議員 (令和の会)



質問Ⅱ 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない情勢の中で、日本のみならず諸外国でも地域経済の活性化等を目的に、デジタル地域

通貨の導入が進んでいる。以前の地域通貨と異なり、デジタル決済が普及した現在において、デジタル地域通貨は導入コストが減少し、維持管理の手間及びコストも圧縮された。音更町独自のデジタル地域通貨を導入し活用できれば、社会貢献と地域経済の活性化の双方

導入に課題あり

現時点では困難

小野町長Ⅱ デジタル地域通貨が運用され、多くの町民や事業者が利用すれば、おとふけへルスケアポイント等と連携することで、町民の社会貢献や健康づくりの向上などにも一定の効果も期待できる可能性はある。デジタル地域通貨導入には何よりも利用できる店舗など参加事業者をより多く確保できるかが課題であり、商工会の協力が不可欠だが、これまで本町商工会からデジタル地域通貨導入の要望はなく、現時点での地域通貨の導入は困難である。

国産優先の働きかけを

甜菜・酪農の生産を守れ

山川 秀正 議員



質問Ⅱ 農畜産物需要が落ち込み在庫増、価格の下落と低迷の一方で配合飼料や肥料、ガソリンなど生産資材の値上げが相次いでいる。本町も農業が基幹産業の一つであるが、その柱である甜菜と酪農について伺う。

関係機関と連携し

国や道への働きかけ

小野町長Ⅱ 町内における甜菜の総生産量は、22万9816・4トンの見込み。甜菜は、輪作体系を構成する重要な作物である。今後の作付面積配分の動向を注視し、農協など関係機関と連携し、必要に応じて国や道などへの働きかけを行う。令和3年度の生乳生産量は昨年度の年間実績5万346トンを超える見込み。国内の配合飼料価格は、令和2年10月以降高騰が続く中、生産者を取り巻く環境は大変厳しい状況である。今後も継続して牛乳の消費拡大に努める。



地元の新鮮野菜を求めて (おはよう青空市)

甜菜について令和3年度の甜菜生産見込みと輪作体系を守るための取組は、酪農について、本年度の生乳生産の見込みと生産抑制の年度内と新年度以降の対応策は、また、飼料等の値上がり状況は。



出荷前のビートの山

アピアランスケアの取組

その人らしく過ごせる支援

上野 美幸 議員 (令和の会)



質問Ⅱアピアランスとは外見のことを意味する。がんは2人に1人が罹患する病気と言われ他人から見える部分に生じる変化は男女問

わず患者にとつては大きな苦痛となっている。一番の悩みは脱毛であり、道外ではウィッグの助成をしている自治体があるが町の考えは。

町民からのアピアランスケア、メンタルに関する相談とサポートの支援体制と本町独自のウィッグ助成の考えは。また、今後のアピ

アピアランスケアの取組は。

安心して治療に専念

支援の検討すめる

小野町長Ⅱ町では、電話等による身体や心の健康に関する相談を随時受け付けているが、アピアランスケアの相談やサポートの中心は医療機関が担っていることから、町への相談はない。現在、直接的なサポートは行っていないが、ピンクリボン月間にはウィッグや温泉などで利用する入浴着の展示などのパネル展を実施。治療を続けるがん患者の社会的参加を後押ししながら、安心して治療に専念できるような支援を行うことが重要と考え、ウィッグの購入助成について検討していく。

ボルダリング振興策を

誰もが親しめるスポーツ

新村 裕司 議員 (公正クラブ)



質問Ⅱボルダリングは4m程度の壁で行うのでマットが敷いてあれば安全ロープは不要で、専用のシューズと動きやすい服装であれば誰でも気軽に楽しめる。ランニング、スイミング等と同様に日常生活での運動として取り込みやすい側面もある。子どもからシニアまでの幅広い層がボルダリングに親しむことは、町民の健康維持・増進に大きく貢献するものと考え、町内の公共体育施設等にボルダリングウォールの整備と振興策について伺う。

整備は現状難しい
今後注視していく

は、指導するインストラクターや転落事故によるけがを未然に防止するための補助員の配置も必要になり、町内の体育施設などへの整備については、現状において難しい。今後、ボルダリングの競技人口の推移などをスポーツ協会と情報を共有し、注視していく。



がん検診の大切さを伝える(乳がん予防パネル展)



子どもからシニアまで幅広い層が楽しめるボルダリング

質問Ⅱ弱視は子どもの50人に1人いると言われている。3歳児健診に行く視力検査は、小さな子どもでは上手にできないこともあり、弱視が見逃される場合がある。視力の発達する時期は幼児期に限られており、適切な時期に異常を発見し治療につなげていくことが必要だと考える。本町の弱視の実態と弱視の危険因子となる斜視及び屈折異常をスクリーニングするための専用検査機器「スポットビジョンスクリーナー」の導入予定について伺う。



子どもの弱視早期発見へ

屈折検査の専用機器導入を

不破 尚美 議員 (新緑会)

異常の早期発見
視力の健全発育に有効

小野町長Ⅱ令和2年度の3歳児健診における視力検査の実績は、受診数351人に対し、弱視診断数は4人。弱視と診断されたお子さんは、いずれも眼科医による治療を開始している。国では来年度か

ら各自治体の屈折検査機器の購入に対する補助制度の創設が予定されている。町としても屈折検査機器の導入は、子どもの目の異常を早期に発見し、視力の健全な発育を図るために有効であると認識しており、先進的な自治体の実施状況なども参考にしながら検討する。



子育ての不安や心配事、相談してください(1歳6か月児健診)

不登校の子ども支援を

豊かに生きる力を育んで

神長 基子 議員 (日本共産党)

スクールカウンセラー
支援を継続

福地教育長Ⅱ令和元年度から北海道教育委員会のスクールカウンセラー活用事業を利用し、1人を拠点校である中学校5校に配置し、必要に応じて小学校にも派遣している。派遣ニーズの推移を見ながら、

北海道教育委員会による事業のほか、町の独自雇用を含め検討し、不登校児童生徒に対する支援を継続する。小野町長Ⅱ総合計画に掲げる各施策や目標指標は毎年度、評価と検証を行うことから、各年度のSDGsの取組状況や認知度の推移などの整理を行う。

質問Ⅱ本町の小中学校における不登校の状況は、全国同様に近年増加傾向にある。子どもたちが、豊かに生きる力を身につけ、自己有用感を高める手立てが重要だ。本町におけるスクールカウンセラーの配置状況と町独自に配置する考えは。

令和3年度スタートした第6期総合計画ではSDGsが重要な位置付けとして策定された。SDGsが町民に広く共有され、意識的に取り組める体制整備が必要。進捗評価等の体制を構築する考えは。



一年分の思いを込めて演奏します

おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ

審議会等への女性参画を

男女共同参画社会に向けて

三浦 和子議員 (新緑会)



女性委員の登用推進
浸透するよう努める

質問Ⅱ「おとふけ男女共同参画プラン」は、審議会委員への女性参画拡大を進めるとしており、第5期総合計画では審議会等の女性登用率目標を40%と掲げたが、第6期総合計画スタート時は約28%と低い。現在、女性登用率が30%以上の審議会等は半数にも至らず、中には女性が不在の会も数多くある。「みんなが住みよい選ばれらるまち」づくりには政策方針決定の場への女性の参画は必然であり、女性登用推進のための町の取組を伺う。

小野町長Ⅱ各種審議会委員は、産業、福祉、などの各分野や関係する団体、地域や年代なども考慮し、各種審議会の目的に応じてバランス良く選出するように配慮していると、公募委員や女性委員

員を積極的に登用するよう取り組んできた。引き続き各種審議会における女性委員の登用を推進し、地域における女性の活躍を町が先導するとともに、性別による固定的役割分担意識の解消など、地域社会全体に男女共同参画の考え方が浸透するよう普及啓発に努める。



住みよいまちづくりのため (総合計画推進委員会)

自主防災組織の活動推進

防災活動・人材育成の取組を

小澤 直輝議員 (令和の会)

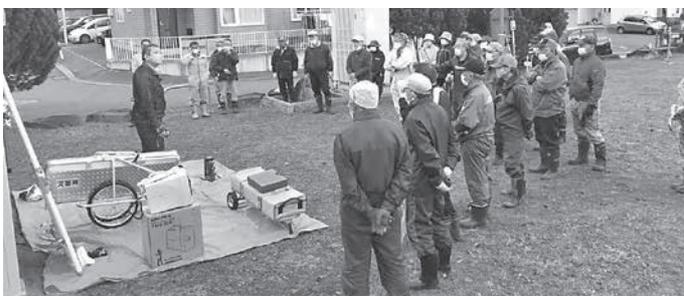


自主防災組織の充実
防災リーダー育成

質問Ⅱ第6期総合計画では、「自主防災組織の組織率が78・9%にとどまっているため、出前防災講座や広報活動などを通じて防災意識を高めるとともに、他の事例も参考にしながら、組織率を向上させることが必要です。」と明記されている。今後、町として自主防災組織への取組と人材育成について伺う。

小野町長Ⅱ①自主防災組織が未設立の町内会に対し、組織化の必要性や効果のPR、設立のための事務支援を実施。設立済みの組織には、組織内行事の開催に併せ、職員や外部講師による出前防災講座

を行っている②地域防災の要である防災リーダーの育成のため、防災士や防災マスターの資格取得に必要な経費を補助する「音更町防災士等育成補助事業」を実施しており、自主防災組織を効果的にけん引する防災リーダーの育成に向けた取組を継続する。



住民主体の自主防災会 (防災出前講座)

①自主防災組織の活動を推進するための施策は②町民の防災意識の向上を図るために具体的な取組と人材育成への町の対策は。

ジェンダー平等の実現へ

自分らしく生きられる社会

石垣 加奈子 議員(日本共産党)



男女平等

普及啓発を継続

小野町長 ①令和2年賃金構造基本統計調査によると、一般労働者の男性の平均賃金水準を100とした場合の女性の水準は74.3。賃金格差の主な要因は、職場における男女平等の理解が十分に浸透し

ておらず、家事や育児と仕事の両立を図るための制度が機能しにくく、男女間の平均勤続年数などに差が生じることだと認識。あらゆる立場の人が男女平等に関する理解を深めるための普及啓発を継続する②課題解決のための有効な手法の一つと認識している。

AI配車システムの導入

予約によるコミバス運行へ

山川 光雄 議員(新緑会)



コミバス運行

AI導入は困難

質問 ①本町のコミュニケーションバス(以下コミバス)は、乗降時間や乗降場所を定めて運行しているが、AI(人口知能)の配車システムを導入して、希望する時間と場所を指定できるコミバスを運行する自治体が増えている。コミバス利用者の利便性を高めるため、AIによる配車システムの導入を検討できないか。

小野町長 ①コミバスは、2台のバスがそれぞれ1日3便、経路と時間を決めて運行しており、多い日には100人以上の利用がある。利用される全ての方が希望する時間と場所に車両2台で移送することは

AIを活用したとしても困難であり、現時点で導入する考えはない。予約制乗合タクシーの増便を求める要望はない。また、新道の駅への運行はコミバスの増便や運行時刻の抜本的な見直しが必要であり難しいが、道の駅事業者やバス事業者と協議を重ね方策を探る。

質問 ②男女平等の達成度を示すジェンダーギャップ指数で日本は120位と大きく立ち遅れており、法律や制度上では男女平等となった社会でも賃金の格差など女性の社会的地位は低い。さらに新型コロナウイルスにより深刻な事態に追い込まれた。性別にかかわらず個人の尊厳が大切にされ、自分らしく生きられるジェンダー平等社会の実現をさらに進めるために問う。①男女の賃金格差の実態と解消策は②同性パートナーシップ制度への見解は。



すすめよう!!男女共同参画(音更町図書館にて)

また、農村地区予約制乗合タクシーの便数を増便することや、新道の駅「なつぞらのふる里」へのコミバスの運行について伺う。



町民の貴重な足として活躍するコミバス

委員会の動き

議会には3つの常任委員会のほか、議会運営委員会、広報特別委員会が設置されています。ここでは、常任委員会の活動内容を紹介します。

総務 文教

音更高校の間口維持 タブレット貸与を町に要請

11月16日に音更高校を視察し、学校側との意見交換を行った。生徒の授業を参観し、校内を見学。3年間の学びを自分で組み立てられる単位制の授業を行っているっており、主体的に学

び、生徒の自主性の成長を促すシステムになっている。この単位制により、農業科目20単位を修得すると農業高校と同じ推薦がとれるなどのメリットもあり、進学にも力を入れている。また、探求活動を重視した取組もしている。委員会として令和4年度の3間口維持に向けて、高校の魅力をどう発信できるか情報交換をしながら関わっていききたいなどの意見が出された。

令和4年度、新学習指導要領の改定により、新1年生から一人一台のタブレット端末が必要になることから、無償貸与する方針を固め町へ要請した。引き続き音更高校の3間口を維持するための議論を続ける。

農村環境改善センター 郷土資料室改修へ

11月26日、音更町農村環境改善センターの郷土資料室リニューアルの現地調査を行った。通史展示を基本とし、学識経験者からのアドバイス、指導を受け整備を進めている。2回のリニューアルを予定し、令和5年3月完成予定。幅広い年代の方

経済 建設

11月1日、令和4年4月移転開業予定の新道の駅おとふけを現地調査した。新道の駅は、「食と体験を基に人々が賑わい、交流を行う拠点施設」を目指しており、地元の農畜産物



親しまれる郷土資料室へ

が足を運んでくれるような憩いの場となるようにとの思いが各委員からも意見として出た。町を多くの方に知って

いただく新たなスポットとなるよう委員会としても活発な発信をしていく。

「なつぞらのふる里」 工事の進捗状況を確認

を味わう充実した飲食コーナーとして飲食店7ブース、ベーカリー、カフェが出店する。ピアニを配置し、演奏会等のイベントも開催できる広々とした休憩コーナーや充実した

キッズコーナーができる。建物の柱や梁、休憩コーナーに配置される約200脚の椅子には、十勝大雪森林組合の協力を得て町有林から切り出したカラマツの集成材が使用されて



夢と期待がふくらむ新道の駅

いる。道の駅の機能として重要な24時間利用可能なトイレは、充分な広さと設備を有しており、防犯カメラの位置や数等についても検討されたことを確認。駐車場は駐車マスの幅が広く利用しやすい。

町名モニタリング SNSを意識

国道に面してアルファベットで表記した町名のモニタリングは

SNS等での発信を意識したものである。なつぞらエリアの進捗状況、子ども遊び場スペース、道の駅北側広場、なつぞら公園に整備された都市間バス発着場やトイレ棟の整備状況も確認した。

道東及び十勝の玄関口として、訪れる全ての人に音更町の魅力を発信できる道の駅になることを期待する。

民生

音更霊園に合同納骨塚 令和4年10月供用予定

11月26日、音更霊園内に整備する合同納骨塚の予定箇所を現地調査した。霊園南側に位置する小高い丘の約400平方メートルの土地に、令和4年10月供用開始の予定。収容埋蔵数は3千体、カロート(地下納骨)方式で、石碑と納骨を行う収納部が建つ計画である。利用対象者の条件や使用料等は、令和4年度に条

例で決められる。

委員からは、町民から要望の多い施設であり、霊園内の景観への配慮、スロープの通路もあるなど評価する意見があった。

感染対策専門家 講演と現地指導

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザー派遣事業について、担当課から説明を受け、事業の成果を調査した。

事業は、学校・保育施設・介護サービス事業所・十勝川温泉旅館・老人クラブ連合



町民要望の多い合同納骨塚の整備へ

会・地域交流サロンを対象に北海道医療大学の石角講師からリモートや来町による講演と現地指導があった。その内容は、感染対策やプール、合唱・体育授業、体調不良児の環境づくり、カラオケ実施の対策など各施設の質問に対する助言・指導などである。

委員からは、温泉旅館での現地指導や各施設の不安に助言をもらい、専門家から感染防止の正しい知識を得てまん延防止に繋がるなどの意見があった。

3 常任委員会が合同で現地調査 新道の駅おとふけ建設現場

令和3年11月1日、音更町議会は常任委員会合同調査を実施した。このほど愛称も「な

つぞらのふる里」と決まり、音更町の新たな魅力発信エリアとして、町内外の人々の交流促進のために、道の駅をオープンする。ここでは、合同調査に参加した議員の感想と魅力を紹介します。



愛称は「なつぞらのふる里」(4月15日オープン予定)

○「これぞ十勝!」というように開けた畑地と広く澄んだ空を感じられる立地が心地よく、都会からの観光客にとっては期待通りの景色が堪能できるでしょう。また、地元住民にとっても食やイベント開催等、憩いと集いの場として大きな役割が期待されオープンが非常に待ち遠しいです。

○音更町の「美味しい」「ワクワク感」がギョッと凝縮された新しい道の駅です。休憩所やトイレにはやさし

い配慮もされており、子どもから大人まで安心してご利用いただけると思います。

○ここは、食と体験を基に人々が賑わい、交流をする拠点施設で最大の特徴は「なつぞらの再現。木材は音更町から切り出されたカラマツ。また、子どもたちの遊び場も充実しています。



美しいメロディーを町民へ(文化センター野外フェス)

議員からは、期待を寄せる様々な声が聞かれた。音更町は令和2年7月にも、「ガーンズパオ十勝川温泉」が道の駅に登録され、賑わいを見せている。音更町には魅力ある観光資源がたくさんあり、これからも最大限に活かし更なる町の発展を目指していきたい。

他にも4年に一度札幌市で行われる全道町村議会の広報担当者が集まる研修会に参加したり、新聞社や広報誌の発行元にお話を聞きに伺ったりしながら、これからも議会の情報をより身近に感じていただくために、提供していきたいと思えます。

編集委員 堀江美夫

編集後記

令和3年11月に上富良野町議会の広報委員6名が行政視察で来訪し、私たち委員会も6名の委員と意見交換をしました。

以前にも、浦河町議会が来訪されたり、私たちが栗山町議会へ伺ったりして、お互い勉強させていただき、議会の内容をより良く町民に発信できるように、情報交換をしています。色々新しい発見もあり、お互いの共通の問題点も分かり、有意義な時間を共有しました。